

市民の手による源流の森づくり

NPO 法人新町川を守る会

理事長 中村 英雄

大河・吉野川をはぐくむ新たな源流の森づくりとして、NPO法人新町川を守る会が高知県大川村の協力を得て取り組んでいる水源涵養林の造成は、今年で4年目となる。

早朝にメンバー40人と貸し切りバスで徳島市を出発し、目的地は吉野川の河口から約140 km 以上上流の「3001年の森」である。

この名前の由来は、森づくりは千年がかりの仕事という思いを込めて名付けたものである。

普段は、吉野川の河口部分や徳島市内の河川の清掃を毎月2回ボートに乗り込んで行っているが、河川環境の保全を目的にした活動を通じて、川からの恵みの有り難さや、豊かで美しい川は人々の心をいやし、まちの誇りとなっていることを強く感じるようになった。

以前から川や山の課題を語り合いともに活動をしてきた上流の仲間達に働きかけ、さらに同志を集め、大川村からは2~~畝~~の村有林を1001年間無償で貸与されたものである。

植林する村有林は、標高700～800~~m~~の地点にあり、保有能力の高いケヤキやカエデなどの広葉樹である。

2~~畝~~の傾斜面での間伐作業と植林は、都市の住民が中心となっているNPOのメンバーにはきつい作業ではあるが、地元住民を始め、国の機関の支援をいただいたり、会員以外の参加者も増え、年3回の活動を進めていくための体制が整ってきている。

木材市況の低迷などから間伐作業が行き届かず、保水力の落ち込みが著しい源流の森の再生は、非力な市民レベルの取り組みではあるが、社会全体の目を森林に向けてもらえるための運動として末永く取り組んでいきたいと決意している。

実施年月日

平成18年4月22日（土）～平成18年4月23日（日）





